

津谷市政がスタート

平成21年4月5日告示、12日投票開票

●北秋田市長選挙結果

当選	津谷永光（57）	無新	17,916票
次点	岩川 徹（60）	無新	8,243票
◇当日有権者数	32,357人		
◇投票者総数	26,421人		
◇投票率	81.65%		



▲初登庁で女性職員から花束を受け取り、駆けつけた市民に応える津谷市長

4月17日、初登庁

新市発足後2回目となる市長選挙が4月12日（日）行われ、投票の結果、前県議会議員の津谷永光氏が当選し2代目の北秋田市長が決まりました。

津谷市長は17日、市役所本庁舎玄関前で多勢の市民や職員らの拍手に迎えられながら初登庁、こやかに市民らと握手を交わしました。

また、女性職員から花束を受け

津谷市長の略歴

昭和26年8月6日
北秋田市（鷹巣町）に生まれる

昭和50年3月
慶応義塾大学経済学部卒業

昭和62年
秋田県議会議員初当選
連続6期当選

平成13年
第57代秋田県議会議長
秋田県林業協会会長
北秋田市職業訓練協会会長
住所：北秋田市松葉町4-2

市民が主役、行政は市民とともに

市庁舎3階の大会議室で行われた訓示では、県議会議員として22年間県政に携わり、行政を最も近い立場で体験していたことから、「行政のサービスは与えるとか、やってやるとか、そういったものではなくて、市民の声に耳を傾けるとともに、市民にとって必要な施策や事業を市民とともに、選択し、積み上げていくものと考えます」と行政のあり方を述べるとともに「市民もまた、自分で出来るものは

出来るだけ自分で頑張ってもらおうという、自主努力の自助、そして、それでもどうしても一人では無理だと、そういうところは地域や周りで、共に助け合うという共助、そして、そのように必死に努力して生きている市民に、行政が優しく手を差し伸べるという公助の仕組みをしっかりと構築して、4つの町の時代から、そのしがらみや垣根を取り払って、役所も市民も気持ちを一いつにして、明るく元気な北秋田という同じ方向に向かって進むことが出来る市政を目指して行きたいと思えます」との姿勢を示しました。

また、「行政には、スピードが求められております。職員同士が報告と連絡をより密にし、情報の共有に努めるとともに、鉛筆一本、紙切れ一枚に至るまで、すべて大事な市民の血税であるという認識で、可能な限りの節約につとめて、

投票率は81.65%

今回の市長選挙は、当日の有権者数が3万2357人、投票者総数は2万6421人、投票率は81.65%となりました。当日、午後8時30分から始まった開票では、会場となった鷹巣体育館にすべての投票区から投票箱が運び込まれ、およそ250人ほどの市民らが見守る中での開票作業となりました。

なお、区域別（旧町単位）の投票率は次のとおりです。

◇鷹巣計	82.63%	◇森吉計	81.63%
◇合川計	79.68%	◇阿仁計	80.50%



▲就任後、幹部職員を前に訓示を行う津谷市長



▲開票は鷹巣体育館で行われ、午後11時頃、当落が決定した

◇市長就任の「あいさつ」◇

誰もが地域づくりに参加できる、生き生きと暮らせるまちに

私は、このたびの北秋田市長選挙におきまして、市民の皆さまの温かいご支援をいただき、新市2代目の市長として、市政運営の重責を担うことになりました。

当選の余韻に浸る間もなく、北秋田を愛する市民の皆さまの期待を一身に感じながら、新市長として多忙な日々を過ごしております。

私は、秋田県議会議員として6期22年にわたって秋田県そして北秋田地域のため粉骨砕身働いてまいりましたが、これも市民の皆さまの支えがあったからこそと強く認識しております。これからは市長として生まれ育った北秋田のために全力投球してまいります。

さて、世界的な不況により地方を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。当地域も例外ではなく、市の財政状況は決して楽観できる状況ではありません。

また、市民病院や内陸線そしてスキー場など、大きな懸案事項を抱えており、迅速かつ適切に対応していくことが求められています。

今、北秋田市のまちづくりに求められるのは、行財政改革の推進、地域医療と福祉の充実、そして、市民が互いに協力し、助け合い、前向きに取り組む真摯な姿勢だと思っております。市民の皆さまと一体となり協働のまちづくりに取り組むことで、この難局を乗り切るための活路が開けるものと信じております。活力あるまちづくりのため生活基盤の整備を最優先するとともに、元気な笑顔の溢れるまちづくりを進めるための努力をする決意です。

北秋田市を住み良く希望あふれるまちにするため、市民の皆さまのご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

北秋田市長 津谷永光